

郵便はがき



084

新年あけましておめでとうございます



総合農事センター(小倉南区)

今年も
みなさまに
よい年で
ありますよう
祈念いたします

所員一同

2007年 元旦

北九州市小倉北区
春

昨年は、憲法改悪を阻止することができ、その余勢を駆って、民主的な政権を誕生させることができ、本当によかったですね。などと事務所ニュースに書いていたら、あれれ…、目が覚めてしまいました。やっぱり、夢…。しかし、これを是非正夢にしたいものです。

それにしても、最近では夢とか理想とかいったものを皆語るなくなってきているように思えます。苦しい生活、厳しい競争の中で、そんなもの語っている暇などないというのが現実かもしれません。

しかし、憲法、教育基本法、労働基準法など、国の根本法規を変えようとする動きの中で、夢や理想が語られなくなってきているのは問題だと思います。

人は夢や理想を持ちうるから人なのであって、夢や理想を失ってしまえば、人はチャップリンがモダンタイムスで描いた職工のように意思のない人間畜車になってしまうからです。ですから、その人の集団である国の基本的な決まりごとを決めるときこそ、熱く夢や理想が語られ、希望に満ちた議論が闘わされる必要があるはずです。

今の憲法、そして教育基本法を読むと、そこからは私たちの先輩達の描いた夢や理想が手にとるように分かります。希望にもえ、熱い思いで、この憲法、教育基本法を作り上げたことが目に浮かびます。その憲法、教育基本法が変えられようとしている今、私たちは先輩

達に負けにくい夢や理想を熱く語るなければならないのではないのでしょうか。国として他の国を攻め人を殺すこともありますよということを、どうして憲法として国全体の基本的な約束事にしなければならないのでしょうか。人を一人も殺さない、そのために武器も捨てるという理想を掲げ、その理想に向かって国民全員が希望を持って全力を尽くすという憲法こそ私たちは誇りを持てるのではないのでしょうか。

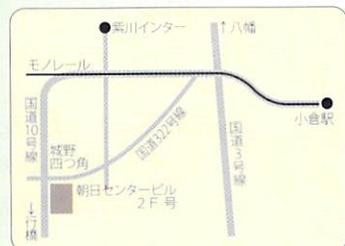
私たちはほんの少し前だったら、夢のまた夢と笑われたであろう月にも立ってはいませんか。新しい年を迎えた今、もう一度夢を取り戻し、理想を熱く語ろうではありませんか。

みなさんと一緒に環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.14

- 発行日 2007年 1月 1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒 牧 啓 一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区片野新町2丁目12番21号 朝日センタービル 2階 TEL093(932)5575 FAX093(932)5600 e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



市政・国政
師弟対談

地域の声に耳を傾ける市政に(三輪) 北九州を明るく良い見本に変えて(田村)

残念ながらこのところ全国ニュースで暗い話題ばかりを提供している北九州市。その北九州で2月に市長選挙が行われる。北九州市に笑顔を！みんな笑顔の北九州を！と立ち上がった「市長予定候補」三輪俊和さん(元北九州市立大学経済学部教授)と北九州から国政を変えようと挑戦する田村貴昭さん(日本共産党衆議院予定候補)お二人による「市民の挑戦」新春特別対談。

〓サコちゃんが僕を変えた、

田村 この「東風」は〓市民の挑戦、をずっと取り上げてきているということなんですが、先生も私も関西からこの北九州に骨をうずめる覚悟で移り住んで、北九州の発展と市民の幸せのために生きたいと、先生は市長候補として、私は市会議員8年を経て現在、衆議院予定候補として飛び回ってるわけです。私は、学生時代に先生の「北九州は労働者の街。時代を拓くのはいつも働く人たちや。日本の夜明けはこの北九州からかもしれんぞ！」ということばが忘れられず、それを現実のものにしたいと奮闘してきました。そもそも先生はなぜ、この北九州に骨をうずめようと思われたんです？

三輪 北九州に来たのは1973年3月。その5月1日に30歳の時。このときにはもう自分の生き方はみな決まってきました。社会のために生きる！と自分の中ではっきり

と確立しとった。

田村 なにがそうさせた？

三輪 僕を決定的に変えたのはサコちゃんや。自分史を語るのにサコちゃんとのことを除いては語れん。長くなるけど…

(以下、最愛の奥様「サコちゃん」との感動的恋愛秘話、三輪さんの精神史が熱く語られること40分…で、かいつまんでお話ししますと…)

出会いは20歳、サコちゃん16歳。素直だけがとりえの社長の息子がお嬢様の彼女と、家庭教師と教え子として運命の出会いを果たした。出会った瞬間に心の中にバラの花が咲いて以来、「サコちゃ〜ん」と叫びながらボート部でオールをこぎ続け、「サコちゃ〜ん」と涙を流しながら読書に没頭し、「サコちゃ〜ん」のために朝から晩まで一世一代の人生をかけた猛勉強に打ち込んだ。「このとき、自分が真剣に生きていく音がしたんや」(名言！)。そして21歳のとき婚約。そのことが大きな自信となりさらなる精神の安定感と大胆な行動力が育かれた。

三輪 とにかく「すばらしい人間になりたい」と思った。それは何や？それはとにかく「真剣であること、誠実であること」このふたつだと。これは今でも僕の信条。これこそが彼女への愛や！ってなもんや。部活も読書も勉強もまさに真剣勝負！でもあるとき気づいた。これだけの読書、猛勉強も今の自分は「頭

の中だけ」、まさに観念論。実践が足りんと。そしてもうひとつ、「平凡な人の生活の重み」というものにはっとした。僕はこんなにも自分を律して猛勉強しとる、が学生が勉強するのはあたりまえのことやし、たとえさぼたって世の中進んでいく。でも、この世の中の平凡な一人ひとりの生活の営みは一日たりとも止められない、それはすごいことだと。そう思い至った時、僕は本当にすべての人間の存在が愛おしくなって自然と涙がでた。社会学者として一番大事な点にこのとき気づいたんです。

田村 はじめて聞きました。感動したなあ。まさに愛と情熱とロマンそして行動力…先生の魅力はこうして創られていったんですね。それで「実践力」と今の卓越した「政策力」の方はどこで培われたんですか？

三輪 僕はサコちゃんを幸せにするため神戸大を首席で卒業して大学院に進むと決めてそれをやり遂げた。そしてこれだけ誠実真剣に生きてるんだから人間性でも負けへんと思っ





てた。だけど、院に入ったらもっとすばらしい先輩方があって、そこに来て大学紛争や。その先輩と共に執行委員として全共闘の奴らと真っ向勝負する中で、日々の実践でまさに短期間に民主化運動のリーダーとして鍛え上げられていったんです。そして恋愛過程で2人の思想が変わっていくのをはっきりと実感しまし

『餓死事件で市長への立候補を決意、』

田村 そのときからいずれ市長になるつもりだった？（笑）。私も現在、候補者として全九州を飛び回ってるんですが、その中で他県の方によく言われるのが「北九州は行政改革の先取り。これ以上悪い見本をつくらんといてくれ」ということなんです。餓死事件に象徴される容赦ない福祉切捨て、公立保育所・学校給食等の民間への投げ渡し、敬老祝い金の廃止も一番に行ったのは北九州、そんな悪い見本が今、九州を南下している。中央直結の市長が、ルネサンス構想と称して形だけ市民を取り込んだようなポーズをとりながら、ガンガンと福祉切捨て、大企業本位の箱作り行政を推し進めてきた。その中で市民はあまりに虐げられすぎて、あきらめ観すら漂っている。こんな現状の中で具体的にどう市民に明るい展望を示していこうと？

三輪 僕に出馬の決意をさせたのはなんといっても今回の餓死事件です。今でも、命の灯が消えたときの孤独感はどんなだったろうと思うと涙が出てくる。でも市内を廻って話を聞くと、市民の現実の生活はもっ

た。「どんな感動的なことばよりも、あなたの一つ一つの行動が私を変えてくれました」と言われたなあ。だから北九州に来たときには、「やりきった」という自信と確信を持って、この北九州の地を変革しよう！と思って二人して小倉駅に降りたったんです。

と壮絶なものやった。たとえば商店街や町工場。それらはその町にふさわしい形で造りあげられていくもの、つまりその町の文化そのものです。子育ても暮らしも思い出もみなそこにある。それが市内どこへ行っても淋しいシャッター街。僕が市長になったら、とにかく「聞く」。地域のことを知ってるのは地域の人です。その言葉に必ず耳を傾ける。そして誠実に市政の情報は公開する。絶対に嘘はつかない。その上で地域の人と共に論議を尽くして、みんなで決める。一部の人だけで勝手に決めるんじゃない。この民主主義の基本をまずやりきる！。これはお金がかからない、気持ちがあればすぐ実行できることです。

田村 民主的な「決定論」という



のは大事な問題ですよ。市民が市長を作り、市民が市政を作る。市民の世論・意識が必ず市政を変える。市長が変われば今ある無駄遣いをすっばとやめさせることができる。そしてその財源で、どこに何が必要なのか、どう市民の幸せ、笑顔のために振り分けていくのか、すぐに実行できる。

『生きる原点…… 憲法を守ること、』

三輪 そうです、目に見えてははっきりと変わります。無駄遣いにはとにかく「待った！」といえ、すぐに福祉にお金が回せる。ゴミ袋の無料化や子どもの医療費無料化、国保引下げなんてすぐ実行できる。

田村 それに加えて政令市である北九州で憲法を守り平和を守る市長が誕生することは日本全体に大きな影響を与えることになります。日本の良心を示すことになる。

三輪 僕にとって憲法を守るとは生きる原点です。はじめて前文を読んだときのあの背筋の伸びる感動とときめきは絶対に忘れない。今、世界はアメリカの独裁にノーと言い始めている。アジアに近いこの北九州市から新しい時代のロマンと希望の灯を赤々とてらしていこう！その先頭に立つために全力でがんばりたい、必ず勝ちたいと思っています。

田村 今日ははじめてうかがうお話もたくさんあって、僕もまた活力がみなぎるのを感じました。ありがとうございました。共にごがんばりましょう！

追伸：「僕はバッティングは天才的やで！90歳過ぎて、全力疾走でホームベースに突っ込んで頭打ってあの世に行く。ほんでな、審判が『アウト！』といったら、あの世から『セーフやろ！』って怒鳴りつけてやるん。そんな人生がいいな」…三輪さんの魅力に参加者一同、時を忘れての対談でした。また、経済学理論についても格調高い興味深いお話をたくさん伺いました。編集者の能力と紙面の都合で割愛したことをお詫びします。（敬称は略しました）